



昭和40年から活用されている「のびゆく大田原市」

## 義務教育の教材について

質問（本澤節子議員） 観光資源を義務教育の教材にしてはどうか伺います。

答弁（教育長） ご質問でありま

多く取り入れ、実感を伴った学習活動を展開しております。社会科副読本「のびゆく大田原市」

は、市内の社会科教員を中心とした社会科研究会において、本市の観光資源も含めた教育教材を調査、研究し、二年ごとに内容を更新しております。その内容は、学習指導要領はもとより、本市の豊かな観光資源を初め、伝統、文化、歴史を畏敬の念をもって教え、学ぶ有効な教材となっております。

さらに、中学校においては、総合的な学習の時間等を中心に、校外学習や職場体験学習を通して、本市の産業や観光資源を学ぶ機会を意図的、計画的に取り入れております。

教育委員会といたしましても、今後とも学校や関係機関と連携し、本市の観光資源を学ぶ機会を重要視するとともに、我が国、郷土及び他国の歴史や文化、伝統に対する関心理解を深め、尊重する態度の育成と道徳的実践力を培うことに努めてまいります。

## 乳がん、子宮がんの早期発見について

質問（増淵寛江議員） 乳がん、子宮がんの早期発見について伺います。

答弁（市長） がん対策の第一は、検診を受診することにより、早期発見、早期治療を行うことです。本市は、多くの方に検診を受診していただくために、乳がん、子宮がん検診につきま

しましては、乳がん検診は三十歳以上、子宮がん検診は、感染症から罹患することもありますことから、二十歳以上に年齢を引き下げて実施をいたしております。

受診回数につきましては、国は二年に一回としておりますが、本市は早期発見のために年一回の受診勧奨をしているところであります。さらに、市民健康診査の未受診者対策として、年度途中で約六千六百人の方に受診勧奨の通知を行い、受診率向上に

も努めております。

平成二十年度の本市の四十歳以上の受診率については、乳がん検診が43.2%、子宮がん検診は33.2%であり、県内では高位にありますが、国の目標受診率は50%であるため、さらに受診率の向上に努めることが課題であります。

また、早期発見、早期治療は、がん検診受診後の要精密検査の方の受診率向上も大きく関与してまいりますので、引き続き電話や訪問等による追跡調査を徹底し、100%の要精密検査受診率に努めてまいりたいと思っております。



乳がん検診で使われるマンモグラフィ検診車